

国立国語研究所学術情報リポジトリ

Cover, Colophon and Contents

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-01-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/3116

国立国語研究所論集

NINJAL Research Papers

20

2021年1月

January 2021

1. 刊行

国立国語研究所（以下、「研究所」という。）における研究活動の活性化と成果の公表及び所内若手研究者育成を目的として、『国立国語研究所論集』（英語名“NINJAL Research Papers”）を各年度に2回（原則として、7月と1月）オンライン版で発行する。ただし、2020年度については冊子体でも発行する。

2. 投稿資格

投稿時に次のいずれかに該当する者とする。ただし、共著の場合は第1著者が次のいずれかに該当すればよい。

(1) 研究所の研究教育職員・研究員

(2) 研究所の客員教員、非常勤研究員・プロジェクト研究員、外来研究員、共同研究プロジェクトに参加している共同研究員（外来研究員及び共同研究員の場合は、それぞれ、受入れ教員及び参加している共同研究プロジェクトのリーダーに相談の上、投稿すること。）

(3) 研究所の名誉教授

(4) その他、国立国語研究所論集編集委員会（以下、「編集委員会」という。）が認めた者

(注)上記(1)(2)に該当する者が退職または任期終了した場合は、その後5年間は投稿資格を有するものとする。ただし、年度途中の退職または任期終了は、その年度末に発生したものとみなす。

3. 投稿時期

投稿原稿の締切は、毎年3月、6月、9月、12月の各10日とする。

4. 論文内容

(1) 投稿は未公開のオリジナルな原稿に限る。他誌に投稿中の原稿は投稿できない。

(2) 研究所の設置目的に沿う内容なら、理論・記述・調査・実験等の手法や分析の枠組みは問わない。ただし、「2. 投稿資格」の(2)に該当する者が投稿する場合は、内容は研究所在職中の研究内容・成果に限るものに限る。

(3) 研究所の研究教育職員・研究員及び非常勤研究員・プロジェクト研究員が投稿する場合は、原則としてNINJALサロンで発表し、そこでの指摘を反映させた原稿とする。また、共同研究員が投稿する場合は、原則として、参加している共同研究プロジェクトの研究発表会で発表し、そこでの指摘を反映させた原稿とする。

(4) 共同研究員が投稿する場合は、論文の内容は、共同研究プロジェクトの研究内容及び研究成果であること。（後略）

(5) 外来研究員が投稿する場合は、論文の内容は、滞在期間中の研究題目に関する研究内容及び研究成果であること。（後略）

(6) 研究の中間報告、既発表論文のデータ補足的な報告も可とする。

5. 原稿のカテゴリ

「論文」のみとし、研究ノートや書評紹介は含めない。

6. 原稿の書式等（略）

7. 原稿及び関連データ提出方法（略）

8. 著作権

著者は、原稿を投稿する際に、以下を承諾したものとする。

- ・個々の論文の著作権は著者に帰属する。
- ・著者は、論文の複製権と公衆送信権の行使を研究所に許諾する。
- ・その他「国立国語研究所における編集著作物の取扱いについて」に定められている事項。

なお、他の著作物に掲載された図版の転載等にかかわる著作権処理、及びデータの利用・公開にかかわる関係者の許諾取得は、著者の責任において行うこと。

9. 採否

原稿の採否は、編集委員会が査読の上、決定する。

10. 校正（略） 11. 稿料（略）

「投稿・執筆要領」の全文および『国立国語研究所論集』オンライン版は、
国立国語研究所ウェブサイトをご覧ください。

Please visit the NINJAL website. You can download (i) the entire text of the guidelines for manuscript submission and the style sheet, and (ii) full-text PDF files published in *NINJAL Research Papers*.

<https://www.ninjal.ac.jp/publication/papers/>

<https://repository.ninjal.ac.jp/>

編集委員会 Editorial Board *委員長 Editor-in-chief

福永由佳 (FUKUNAGA Yuka)

井上文子 (INOUE Fumiko)

松本 曜 (MATSUMOTO Yo)

新野直哉 (NIINO Naoya)

山口昌也 (YAMAGUCHI Masaya)

山崎 誠 (YAMAZAKI Makoto)*

国立国語研究所論集 第20号

NINJAL Research Papers No. 20

2021年1月31日 発行

編 集 国立国語研究所論集編集委員会

発 行 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立国語研究所

〒190-8561 東京都立川市緑町 10-2

TEL: 0570-08-8595 (ナビダイヤル)

<https://www.ninjal.ac.jp/>

E-mail: papers@ninjal.ac.jp (編集委員会)

印刷所 中西印刷株式会社

九州4地点の依頼談話における配慮表現と積極的言語行動

——九州における方言談話の特徴と分布——

松田美香

中国語を母語とする日本語上級学習者の読解過程

——書き手との対話を促す読解指導に向けて——

砂川有里子・朱 桂榮

青森県南部野辺地方言の音韻

中川奈津子

日本語の動詞的名詞(サ変名詞)の文法的位置づけ

——専用型と兼務型——

大島デイヴィッド義和・林 みどり

「とりたて」の作用から見えてくる品詞・表現間の連続性

——フランス語との対照分析を通して——

デロワ中村弥生

対話場面における中国人日本語学習者の「と思う」の習得過程の一考察

——『北京日本語学習者縦断コーパス(B-JAS)』のデータから——

布施悠子・鈴木靖代

岩手県田野畑村方言のアクセント調査報告

——北奥方言アクセント祖体系との関連で——

上野善道

態度をほのめかす例示——日本語引用表現「みたいな」の分析——

白田泰如

『金光明最勝王経』平安初期点における助辞の訓法の再検討

柳原恵津子

テレビドラマのシナリオに見られる話し言葉の(サ)セル表現

——サセ手・シ手の立場と意志の観点から——

王 慧雋

目 次 Contents

九州 4 地点の依頼談話における配慮表現と積極的言語行動 ——九州における方言談話の特徴と分布——	松田美香	
A Study of Comparison in the Seniors' Discourses in the Scene of Request at Four Locations in Kyushu: Discourse Feature and Distribution about Consideration Express and Active Linguistic Behavior in Kyushu Dialect	MATSUDA Mika	1
中国語を母語とする日本語上級学習者の読解過程 ——書き手との対話を促す読解指導に向けて——	砂川有里子・朱 桂榮	
The Reading Process of Advanced Japanese Learners in China: Reading Instructions that Promote Dialog with Authors	SUNAKAWA Yuriko and ZHU Guirong	21
青森県南部野辺地方の音韻	中川奈津子	
Phonology of the Noheji Dialect in Nambu, Aomori	NAKAGAWA Natsuko	41
日本語の動詞的名詞(サ変名詞)の文法的位置づけ ——専用型と兼務型——	大島デイヴィッド義和・林 みどり	
On the Grammatical Status of Verbal Nouns in Japanese: Monocategorical and Polycategorical Types	OSHIMA David Yoshikazu and HAYASHI Midori	57
「とりたて」の作用から見えてくる品詞・表現間の連続性 ——フランス語との対照分析を通して——	デロワ中村弥生	
Continuity among Morpho-syntactic Categories and Expressions as Revealed by the Effects of <i>Toritata</i> : A Contrastive Analysis with French	NAKAMURA-DELLOYE Yayoi	79
対話場面における中国人日本語学習者の「と思う」の習得過程の一考察 ——『北京日本語学習者縦断コーパス(B-JAS)』のデータから——	布施悠子・鈴木靖代	
Study on Learning Process of <i>to omou</i> by Chinese JSL Learners in Dialog: Using Beijing Corpus of Japanese as Second Language (B-JAS) Data	FUSE Yuko and SUZUKI Yasuyo	95

岩手県田野畑村方言のアクセント調査報告 ——北奥方言アクセント祖体系との関連で—— Accent Data from the Tanohata Dialect, Iwate Prefecture: The Proto-Accent System of Northern Tohoku Dialects	上野善道 UWANO Zendo	115
態度をほのめかす例示——日本語引用表現「みたいな」の分析—— Alluding to Attitude through Exemplification: Quotation Marker <i>mitai-na</i> in Japanese Conversation	白田泰如 USUDA Yasuyuki	149
『金光明最勝王経』平安初期点における助辞の訓法の再検討 Reassessing Glossing for Auxiliary Letters with “Golden-Light- Sutra (金光明最勝王経: Jinguangming zuishengwang jing)” in Early Middle Japanese	柳原恵津子 YANAGIHARA Etsuko	171
テレビドラマのシナリオに見られる話し言葉の（サ）セル表現 ——サセ手・シ手の立場と意志の観点から—— Pragmatic Characteristics of Causative Constructions in Spoken Japanese: An Analysis Based on the Data Collected from Scripts for TV Dramas	王 慧雋 WANG Huijun	199